

# ① 自然教育園におけるミゾゴイの 初記録について

川内 博\*

The first record of Japanese Night Heron in the Institute for Nature Study

Hiroshi Kawachi\*

ミゾゴイ *Gorsachius goesagi* Japanese Night Heron は、ペリカン目サギ科ミゾゴイ属の中型鳥類で、本州、四国、九州に渡来し、山地や丘陵地の森林で繁殖する夏鳥である。越冬地はフィリピンなどが知られている。

この鳥は日本だけでその繁殖が知られている鳥で、かつては里山とよばれるような環境で普通に生息していたが、近年その数が減り(川名, 2012), 2012年の環境省の第4次レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)とされている。東京都でも同じような状況である(東京都, 2013)。

筆者は、2014年12月12日午前11時ごろ、定期センサスの途中で、特別保存地区(一般立入禁止)のサンショウウオ沢の上流部で、沢から飛び立つ1羽の後ろ姿を目撃した(川内ほか, 2016)〔図の①〕。その後、2017年4月14日正午ごろに、サンショウウオ沢のさらに上流で、沢から飛び立つ1個体を観察し、撮影した〔写真1・2, 図の②〕この個体は付近を飛びまわり、南側の斜面林に飛び去った。

園内では、2007年5月11日に、森の小道で左翼が拾得された記録がある。この記録について濱尾章二氏は、「拾得されたのが片方の翼のみで、しかも骨と若干の羽毛だけの状態となっていたため、園外で死亡したものがハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* などの捕食者によって運び込まれた可能性が否定できない」とし、園内初記録ではなく参考記録としている(濱尾, 2008)。

今回報告の2例は、いずれも園内での記録である。いずれも1回だけの観察で、継続調査を試みたが生息は確認できなかった。移動の途中で、一時立ち寄りただけと思われる。

近年都内各地で春と秋の渡りの時期に観察・撮影された記録や写真がマスコミやインターネットなどに載せられているので、以前より目につく機会が多い。これは野鳥の観察や写真撮影人口が増えたためと考えられ、個体数が増えたとは考えにくい。本園で複数回記録したので、今後も注視していきたい。

---

\*都市鳥研究会, Urban-Bird Society of Japan



写真1 沢から飛び立ったミゾゴイ



写真2 ミゾゴイを観察した環境

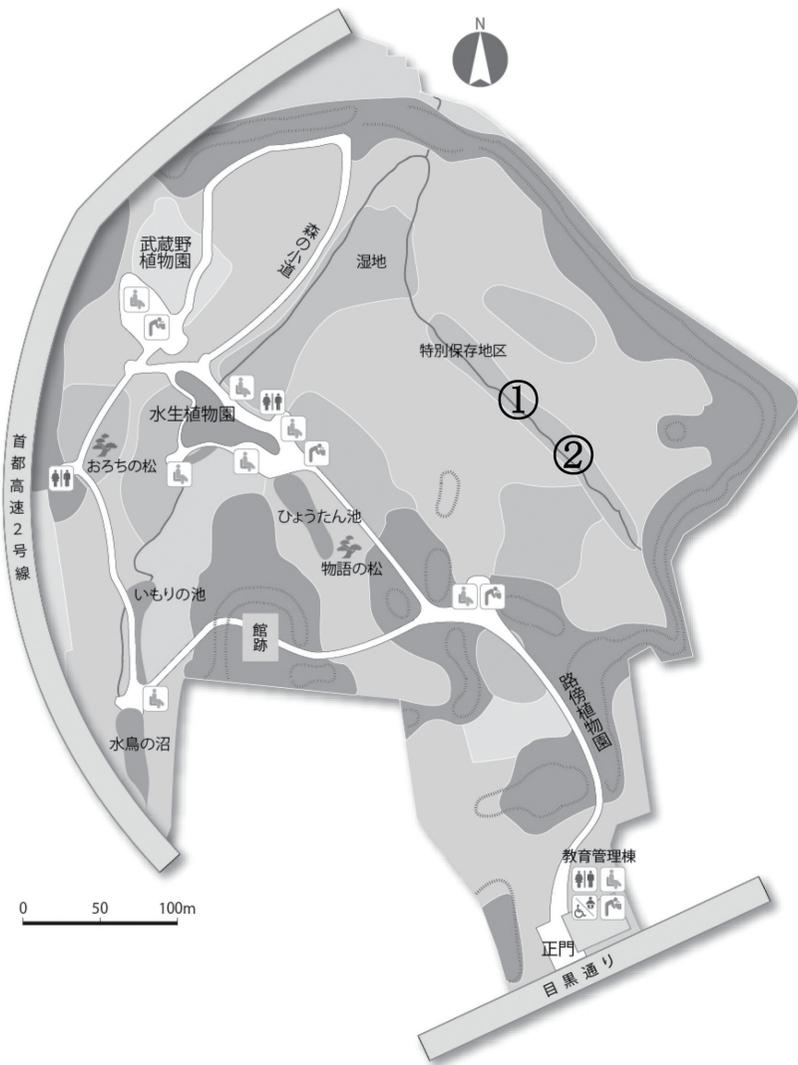


図 ミゾゴイを記録した2か所の位置

## 引用文献

- 濱尾章二. 2008. 自然教育園における鳥類の希少記録: 捕獲・拾得記録の重要性. 自然教育園報告. (39) 63-69.
- 川内 博・大塚 豊・丹羽和夫・川内桂子. 2016. 自然教育園における2010年代前半の生息鳥類について. 自然教育園報告. (47) 29-51.
- 川名国男. 2012. ミゾゴイ～その生態と習性～. 165pp. 自費出版.
- 東京都環境局自然環境部編, 2013. レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版. 655pp. 東京都.